様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月　 ４ 日現在

機関番号：２２６０４
研究種目：若手研究(A)
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｈ０６２７４

研究課題名（和文）若手指導者のための臨床指導ガイドの開発　－助産における臨床教育の基盤づくりー

研究課題名（英文）Development of the guide for educating midwives

研究代表者
菱沼　由梨（Hishinuma, Yuri）

首都大学東京・人間健康科学研究科・准教授

研究者番号：５０５８３６９７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　8,300,000円

研究成果の概要（和文）：看護学生は、教えてくれる、話しかけやすいなどの特徴が、助産学生は、教えてくれる、話しやすい、気にかけてもらえるなどの特徴が、新人助産師は、話しかけやすい、（適切な）コメント、笑顔などの特徴があるとき、助産師をよい指導者とみなしていた。
また、「なぜそのように行動したのか」根拠を尋ねる、「学んだこと」を確認するという教育スキルが発揮されていること、業務が重なった場合でも冷静に対応する、学生や新人に対して共感的態度を示す、誰とでも気さくに話をするといった態度や人柄だけでなく、職場での出来事を助産師同士で話すことを習慣的に行っていることが、よい指導者の臨床指導実践能力として重要であることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
優れた助産師の育成においては、優れた臨床指導実践能力を有する助産師、すなわち、助産を教えることに長けた指導者の存在意義は大きい。本研究成果は、臨床の場においてこれまで指導を受けていた経験のある立場から、”よい指導者”といえる助産師の特徴や、助産師が”優れた指導者”と評価される際に不可欠な要素を明らかにし、系統的に示したものである。助産の実践の場においては、臨床経験3年目より指導者役割を担うことが多く、実践との両立の難しさも加わり、どのように臨床指導してよいか戸惑う若手指導者が多い。本研究成果は、臨床指導に戸惑う若手助産師に対して、その具体的実践方法などを示す基礎的資料を示すものといえる。

研究成果の概要（英文）：For the nursing students, they see the clinical midwives (hereafter, CMs as the competent clinical educators (hereafter, CCEs) when CMs teach them and talk to them frankly. Otherwise, the midwives students see the CMs as the CCEs when they teach them, be able to tolk to and concern about them. Moreover, newly licensed midwves see the CMs as the CCEs when they are able to talk to easily, give them appropriate advices and show them smille. Additionally, it is clarified that the CMs have the following tendencies at the clinical placement when they are evaluated as the CCEs: 1)asking a new midwife (it refer to a nursing student, a midwifery student and a midwife licesed within the past year) the reasons "why she practiced that way", 2)identifying "what the new midwife has learned", 3)showing an empathetic attitude toward new midwives, 4)having a friendly conversation with anybody, 5)talk with their collegues about circumstances experienced at the clinical @lacement.

研究分野：助産学

キーワード：臨床指導者　新人助産師　助産学生　看護学生

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

我が国では、産科医療の高度複雑化と産科医師不足により、優れた実践能力を有する助産師の輩出が長年の課題である。海外においても、優れた実践能力を有する助産師の育成を喫緊の課題としている国が多数存在し、WHO(2013; 2015)は、産科医療の現において優れた実践能力を有する助産師を確保するためには、優れた教育者を育成し、助産師教育の質を担保することが重要であると繰り返し明言している。

しかしながら、臨床指導者の質が、学生や新人が将来どのような専門職になるかということに大きな影響を与えるといわれている一方で、例えば臨床教育システムの１つに mentorship を取り入れている欧米諸国では、臨床指導を任される助産師が抱える困難や問題点が数多く報告され、臨床指導を任された助産師が皆、その役割と責任を遂行できるための教育やトレーニング、組織的なサポートが必要であることが提言されている(Hishinuma et al., 2015)。国内では申請者が(菱沼,2010)、分娩介助実習に習慣的に取り入れられてきた「振り返り」が、助産学生や新人助産師（以下、若手助産師とする）の教育に効果的な教授-学習方法であることを示したが、その展開方法が助産師ひとりひとりの裁量に任され共通した方法論がないこと、臨床指導経験の浅い助産師には浸透しておらず、どのように臨床指導してよいか戸惑いを抱き、自信のないままに臨床指導の役割に就いていることを論じている。

こうした状況を問題視した Hishinuma et al.(2015)は、国内の助産師を対象とした質問紙調査により、臨床指導者の能力が、専門家としてのコンピテンシー（Competency as a professional）、教育者としてのコンピテンシー（Competency as an educator）、（臨床指導者としての）個人特性（Personal characteristics）という 3 つの側面から規定されることを明らかにした（Fig.1）。しかしながら、こうしたことが明らかにされた一方で、臨床現場においては、産科医療の高度複雑化が加速する現状があり、特に分娩進行中の母児の安全を優先すべき状況では、若手指導者が若手助産師の教育に対する責任を重ねて背負うことへの負担は決して軽くない。国内では、臨床経験臨床経験 3～4 年目を迎えると臨床指導者になることが多いが、この時期は、多くは独りで分娩介助を任せられる時期であるとはいえ、母児の安全性を守ることと、若手助産師に質の高い教育(臨床指導)を提供することを同時並行で行っていくことは、決して容易ではないと言える。それ故に、臨床指導者であることへの負担感や嫌悪感、臨床指導を行う上での困難や問題を訴える助産師も、数多く存在する現状がある。

２．研究の目的

本研究は、『若手助産師と臨床指導者がともに成長し合える臨床環境づくり』を目指し、『若手指導者のための臨床指導ガイド（＊）の開発』を行うため、臨床指導の受け手である若手助産師（看護学生、助産学生、新人助産師）の視座から、彼女（彼）らが望む臨床指導のあり方等を明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

本研究に同意の得られた看護師養成機関および助産師養成機関を対象に、「臨床指導者に期待すること」「優れた臨床指導者（またはよい指導者）と思える助産師の特徴」をテーマにインタビュー調査を行った。また、結果の妥当性を検討するため、助産師を対象として質問紙調査（日頃の助産実践を振り返り、専門家としてのコンピテンシー・教育者としてのコンピテンシー・(臨床指導者としての）個人特性に関する自己評価の再分析を行い、“優れた臨床指導者”あるいは“良い指導者”（以下、“よい指導者”）に特徴的な臨床指導実践能力をより具体化した。

４．研究成果

1）インタビューからみられた“よい指導者”の特徴

国内 3 つの看護師または助産師養成機関から協力が得られ、看護学生 10 名、助産学生 17 名から協力が得られた。また、養成機関終了後にインタビューを行うことに同意が得られた助産学生 10 名については、就職後にインタビューを行った。インタビューデータは、逐語録に起こし、“優れた臨床指導者”あるいは“よい指導者”の特徴について語られた部分を抽出したのち、さらにデータクリーンおよび整形を行い、Text Mining Studio 6.3.0 を使用して分析した。

本結果では、「いる」「言う」「聞く」「教える」「考える」といった、コミュニケーションの取り方や、教育技術に関する動詞によって、“よい指導者”の特徴の多くが語られており（図 1)、どのようなことが「できる」（可能)、どのようなことが「しやすい」（容易）指導者が、看護学生や助産学生、新人助産師にとって“よい指導者”となり得るのかを明らかにするため、これらと共起する名詞・動詞・形容詞・形容動詞をあきらかにした（図 2)。

その結果、「見る」（見られる)、「学ぶ」（学べる)、「見てもらう」（見てもらえる)、「やる」（やりやすい)、「教える」（教えられる)といった特徴があるとき、指導者を“よい指導者”と特徴づけていた。また、看護学生・助産学生・新人助産師という属性ごとに、どのような特徴を“よい指導者”と捉えているのかを明らかにした結果（図 3)、看護学生は「教えてくれる」ことを臨床指導を行う助産師（以下、指導者）に期待し、「話しかけやすい」「笑顔」「配慮」といった特徴があるとき、指導者を“よい指導者”特徴づけていた。また、助産学生は指導者に対して、「声

をかけてほしい」願望や期待を持っており、「教えてくれる」「話しやすい」「気にかけてもらえる」といった特徴があるとき、指導者を“よい指導者”と特徴づけていた。さらに新人助産師は、「(適切な) コメント」や「笑顔」を指導者に期待し、「話かけやすい」という特徴がみられたとき、指導者を“よい指導者”と特徴づけていた。　さらに「指導者」を係り受け語としたことばネットワーク図を作成した。その結果、「一緒」「配慮」「笑顔」「雰囲気」「フォロー」という名詞の共起頻度が高く、看護学生や助産学生、新人助産師が、これらの観点から“よい指導者”の特徴を語っていることが明らかとなった。また、「実習しやすい」「わかりやすい」「話しかけやすい」「話しやすい」「質問しやすい」「教えるくれる」「気にかけてもらえる」とき、指導者を“よい指導者”ととらえ、「声をかえてほしい」という要望や期待も併せてもっていることが明らかとなった。

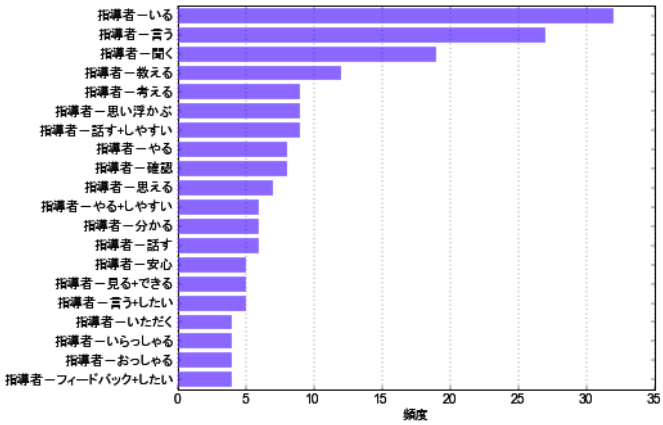

図 1 係り元単語「指導者」における注目語頻度

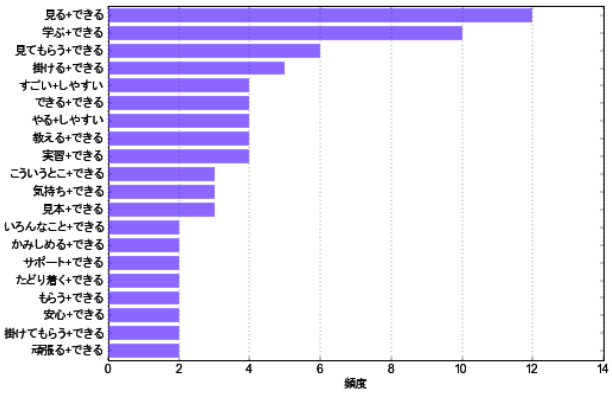

図 2 係元単語「できる」「しやすい」における注目語単語

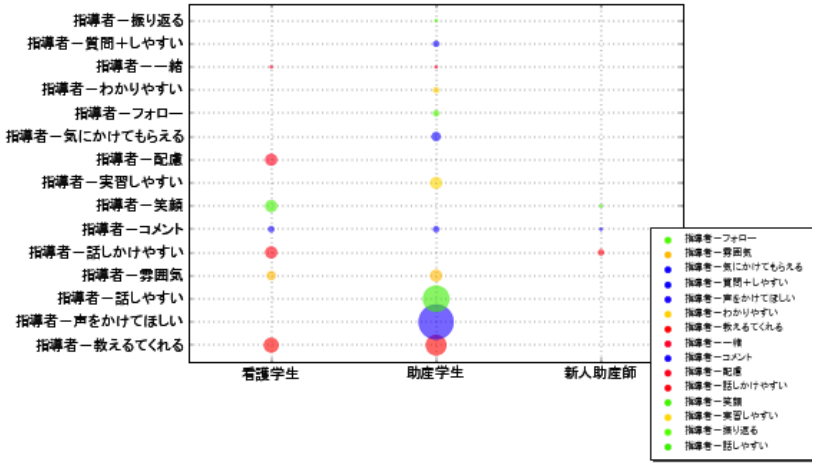

図 3 「指導者」との共起単語：属性別頻度

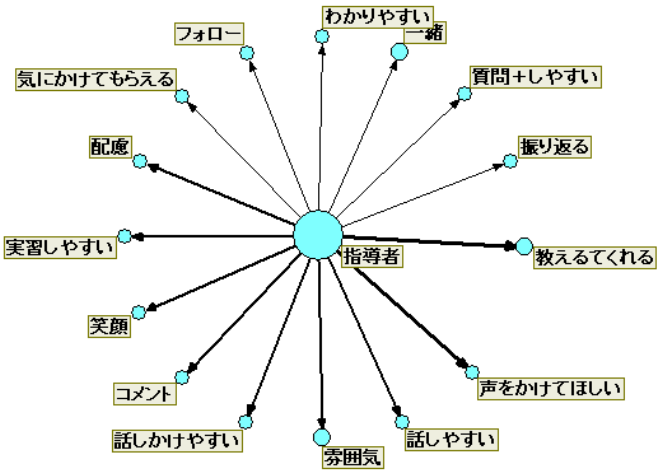

図 4 「指導者」を係り受け語としたことばネットワーク図

2）助産師の実践から捉えた“よい指導者”の特徴

看護学生、助産学生、新人助産師のインタビューを質的に分析した結果の妥当性を検討するため、Hishinuma（2015b）による国内 148 施設の助産師 1004 名のデータを再分析した（菱沼他, 2019）。

探索的因子分析（主成分分析、プロマックス回転）を行い、「成分負荷量 0.6 以上」であることを条件に項目を精選した。固有値 1 以上を有する 5 因子と 24 項目が抽出された。このとき、「過去を振り返って、その時の自分の気持ちを人にわかりやすく伝えることができる」は、第Ⅴ因子への負荷量が 0.450 であったが、その重要性から、“よい指導者”の特徴に含めることとした（表 1）。その結果、「なぜそのように行動したのか」根拠を尋ねたり、「学んだこと」を確認するといった教育スキルを発揮すること、業務が重なった場合でも冷静に対応することが、指導者が“よい指導者”であることを特徴づけることが明らかとなった。

この時、探索的因子分析により抽出した 25 項目により確証的因子分析を行った結果（図 5）、“よい指導者”に特徴的な助産師の臨床指導実践は、3 つの概念と 5 つの下位概念による二次因子構造を有するものとしての妥当性が、統計学的に概ね支持された。

表 1　臨床助産師の指導力を問う 25 項目―探索的因子分析の結果

構成概念：MCCM（信頼性係数α＝.919）			成分負荷量				
概念	下位概念	質問項目	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
専門家としてのコンピテンシー（α=.806）	第Ⅳ因子 自信を見出す自己洞察（α=.822）	1) 業務が複数重なった場合でも，冷静に対応している。	.022	-.031	.000	**.913**	-.083
		2) 実践に必要な専門知識を，十分に持ち合わせている。	-.013	-.042	.025	**.897**	-.006
		3) これまでの臨床経験を振り返ると，助産師としての成長を実感する。	-.014	-.089	.009	**.783**	-.048
	第Ⅴ因子 助産実践の共有（α=.662）	4) 職場であった出来事を，助産師同士で話すようにしている。	-.059	-.0.32	.056	-.183	**.939**
		5) 他のスタッフが助産診断や助産過程を展開する時，自分の意見を伝えている。	-079	.012	-.084	-.090	**.733**
		6) 過去を振り返って，その時の自分の気持ちを人にわかりやすく伝えることができる。	.050	.053	.021	.348	**.454**
教育者としてのコンピテンシー（α=.905）	第Ⅰ因子 経験から学ぶことへの支援（α=.901）	7)（＊：学生や新人に対して）「なぜそのように行動したのか」根拠を尋ねている。	**.908**	-.009	-.113	-.079	-.022
		8)（＊）「学んだこと」を確認している。	**.823**	-044	-.013	-.037	-.040
		9)（＊）タイミングを見計らってフィードバックしている。	**.809**	.036	.014	-.012	.006
		10)（＊）相手に認められた成長を，直接相手に伝えている。	**.773**	.052	.097	-.095	.007
		11)（＊）相手の実体験を，教科書の知識や理論と結びつけて説明している。	**.749**	-.075	.002	.129	-.028
		12)（＊）「できたこと」を確認している。	**.734**	-.025	.129	-.059	-.024
		13)（＊）優しく指導する時と厳しく指導する時を意図的に分けている。	**.653**	-.011	-.072	.091	.079
		14)（＊）自分が相手に期待している内容を明確に伝えている。	**.625**	-.025	.044	.128	.062
	第Ⅲ因子 相手への配慮・共感（α=.871）	15)（＊）共感的態度を示している。	-.018	.040	**.872**	-.066	.023
		16)（＊）相手の状況に合わせるよう努めている。	.006	-.084	**.854**	.046	.028
		17)（＊）相手の心情を気遣って話をしている。	.053	.005	**.836**	-.041	-.025
		18)（＊）相手の立場を尊重している。	-.009	.030	**.790**	.120	-.025
パーソナリティ特性（α=.862）	第Ⅱ因子 臨床指導者特性（α=.862）	19) 誰とでも気さくに話をする。	-.048	**.826**	.066	-.031	.012
		20) 人との付き合いは広い。	-.033	**.796**	-.040	.050	-.037
		21) 初対面の人には自分から話しかける。	-.045	**.776**	.095	-.050	.014
		22) 明るく陽気な性格である。	-.110	**.733**	-.018	.004	.059
		23) 何事にも積極的に取り組んでいる。	.091	**.722**	-.046	.084	.020
		24) 他人の世話をするのが好きだ。	.130	**.663**	.016	-.076	-.042
		25) 思ったらまず実行する。	.055	**.655**	-.090	.033	-.049

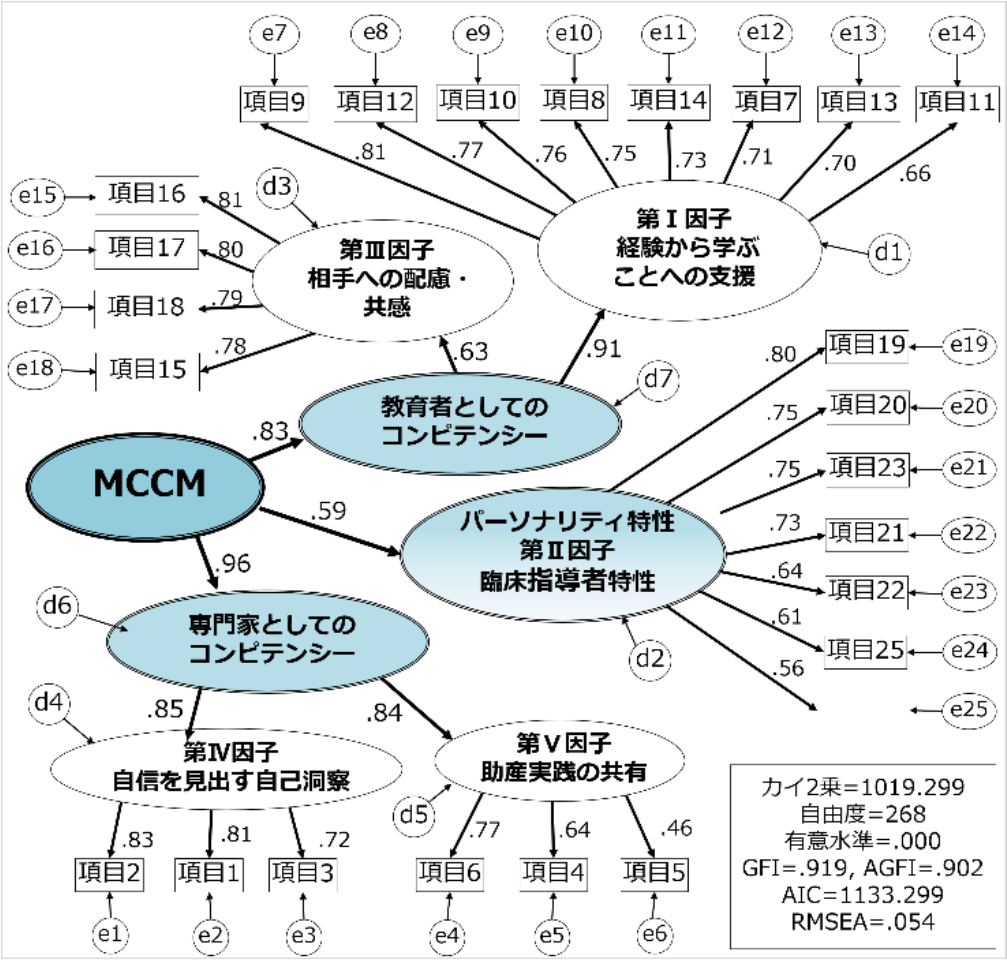

図 5 臨床助産師の指導力を問う 25 項目による二次因子モデル：共分散構造分析（確証的因子分析の結果

３）若手指導者を育む臨床指導ガイド

以上の結果から、看護学生・助産学生・新人助産師を対象に臨床指導者役割を担う若手指導者を対象とした臨床指導ガイドの構成として、「専門家としてコンピテンシー」を培うための方略、「教育者としてコンピテンシー」を培うための方略、「パーソナリティ特性」を培うための方略に大別し、専門家としての助産実践のあり方や、教育者として発揮することが期待される教育スキルを具体的に、看護学生・助産学生・新人助産師の立場から具体的に示す必要性が示された。また、臨床指導者として望ましいパーソナリティ特性を具体的に示すことで、看護学生・助産学生・新人助産師が実習あるいは実践しやく、退職しにくい職場風土づくりの方向性を示すことができた。

Hishinuma, Y. et al. (2015). Factors defining mentoring competencies of clinical midwives: An exploratory quantitative study in Japan. Nurse Education Today. 36, 330-336.

Hishinuma, Y. et al. (2016). Development and assessment of the validity and reliability of a scale for measuring the mentoring competencies of Japanese clinical midwives: An exploratory quantitative research study. Nurse Education Today. 41, 60-66.

菱沼由梨他 (2019). 助産師を対象とした簡易版臨床指導実践能力尺度の開発とその妥当性の検討, 第 39 回 日本看護科学学会, 金沢.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 菱沼由梨，堀内成子
２．発表標題 助産師を対象とした簡易版臨床指導実践能力尺度の開発とその妥当性の検討
３．学会等名 第39回 日本看護科学学会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考